

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271501050		
法人名	有限会社 安富鉄工		
事業所名	グループホーム えびらお		
所在地	長崎県北松浦郡江迎町字源八 801-2		
自己評価作成日	平成22年2月12日	評価結果市町村受理日	平成22年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①環境がよく施設園庭は広い芝生になっていて天気の良い日等散歩・日光浴を楽しむことができる。
②芝生の端には季節の花も植えて花を楽しむことができる。又芝生を活用して各種のイベント等催し物が出来そのような時は近隣の施設に呼びかけ交流ができています。
③自家菜園があり季節ごとに採りたて野菜を味わうことができる。
④希望があれば毎日入浴できる。
⑤全個室で冷暖房完備。水洗トイレ・押入れ・ベット付き。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵まれた自然環境の中にホームは位置している。地域との交流は日常的であり、ホームに幼稚園のお遊戯会などを招いた際には近隣住民の訪問もあり、普段から交流は盛んである。事業所の消防訓練にも地域から参加があり、地域一体で利用者を見守り支援がなされている。特に消防・災害に関して代表、管理者の意識が高く職員への防災責任者研修講習の受講が徹底されている。自然災害に対しても検討され安全管理にも重点をおいている。サービス計画評価表を毎日記録し、職員は利用者の状況を把握することができる仕組みができています。気づきは随時話し合わせ、支援追加事項として赤字で追加され、職員は、すぐに支援に反映しており実践されている。管理者は常にホームの状況を把握しながら「安心」に繋がるよう行動している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 楽しく ゆっくりと」とを日々の暮らしに生かせるように心がけ実践に取り組んでいる	職員は理念に基づき日々支援を行い、理念の振り返りでは利用者の笑顔が見られているかなど検討し、対応を話し合いながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区区会に入会して回覧板等も廻ってくる。又施設でイベント等をする時は近隣の方に呼びかけをすると見学に来て一緒に楽しんでいる	地区区会の敬老会などの案内をもらったり事業所での催事には多くの地域の方、近隣の施設の参加がある。遊戯会などではホームの庭が有効に活用され、地域交流の場となっている。小学校 中学校からの訪問もあり、利用者との交流もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント等の時や回覧板を持ってこられた時等に此処に話しをする事がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業の取り組みの実際や今後の取り組みなど会議の毎に報告し相談や意見等を聞いてサービスに活かしている	年6回、奇数月に開催し日程は参加メンバーのスケジュールに合わせ決定している。外部評価結果、行事などの報告や職員研修、日常の運営に関する意見など話し合い、検討して支援に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月提出物等を持参した時や窓口に出向いた時等に相談ごとや話し等聞いてもらいアドバイスなどもらっている	管理者は月4、5回は役場を訪問し、各種提出物の持参や日常の情報交換を行うことで、事業所の理解を深めてもらうように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない	拘束はしない事を基本として、マニュアルを作成し、実例をあげ話をするなど日々気をつけている。玄関の施錠は事業所の地理的環境、安全性を何度も検討し、運営会議でも再検討され現状に至っている。ただし、言葉による拘束についての意識が不足している。	利用者への言葉かけの際、言葉遣いや声の大きさについて、職員間での気づきや職員会議での意見交換を通じ、再検討されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待が虐待ではなくて「言葉の虐待」もあることを認識するように言葉使いは気をつけるようにしている		

グループホーム えびらお(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を必要とする利用者は入居されていないが研修だけは受けて知識としてはある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際や入所時に契約書・重要事項説明書等の取り交わしの際は十分に説明を行い疑問・質問を受けるようにしている。又改定等の場合も十分に説明をし同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中で利用者は意見や要望等を自由に話される。家族の方へも面会時には要望等を聞くようにしている。要望の中で取り入れられたり、取り組みが出来ることから始めるようにしている	家族の訪問時に希望や意見を言いやすいように職員は声かけを行っている。年1度の家族会も開催されており、遠方や訪問の少ない家族には管理者が電話をし話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出た意見や提案は実行出来るものから取り入れている	毎月1回、管理者と職員全員が参加して職員会議を開催している。利用者の状況や拘束防止の為の意見交換などで、よりよい支援につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に意見を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格試験など積極的に応援をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベント等をする時は近隣の福祉施設に呼びかけ交流をしている。(多数の参加がある)隔月で開催される支援専門員会議にも出席して知識や情報を深めるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後不安が大きな方には密に対応するようにしている。又様々な要望にも出来る限り対応するようにして安心を持ってもらうような関係作りに努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配事や入所後の不安等、出来る限り話を聞き不安を取り除けて安心してもらえるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「利用者が今必要としていること」を十分に見極めサービスの提供に結びつけるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の些細な場面でも会話を心がけている。冗談を日常の会話として笑顔を引き出すようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等本人・家族を交え写真が出来ていれば写真を説明しながら日常の暮らしぶりや病院受診の際のDrの説明や病状の経過等様子等を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達・知人等の面会は大切にしている。墓参り等は希望があれば支援している。(毎月墓参りと自宅に仏様参りに帰られている方もいて支援している)	墓参りや法要、商店街への買物や理美容店の利用などできる限り利用者の希望に添うように外出支援を行っている。家族との外出支援も行われており、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに友人を作り話等和やかにさせていたりする。生花のやり取りや面会時に頂かれた御菓子等のやり取りも目にしたりする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方でも必要時には家族に連絡をいれ現在の状態等を聞いたり行政からの問い合わせを家族に連絡したりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望等、表出できる人には聞いたり出来ない人には本人本位に考えるようにしている	話ができる方は思いや希望を伝えている。発語困難な利用者については本人の気持ちに沿った介護を念頭に置き、表情やうなずきで気持ちを把握するように努めている。また新人職員へ対応方法を指導し、同様の支援ができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の相談時に家族に聞いたりこれまで関わってこられた方に今までの暮らしぶりを聞いたりして生活の状況等把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方や心身の状況・出来る能力等把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理解ができる方は本人と、できない方は家族や職員と話し合いながら介護計画を作成するようにしている	短期3ヶ月での見直しを実施している。実践状況は計画評価表に毎日記録している。日常会話から利用者の希望を聞き取り、訪問時等に尋ねた家族の要望をまとめ介護計画原案を作成し、家族へ確認後、職員と話し合い決定し家族の同意を得ている。気づいた点は追加項目として赤で記載し随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫などは申し送りノートに記入したり職員会議の場で話し合い取り入れるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じてサービスの内容を話し合いながらその時に即した内容に此处に変えている		

グループホーム えびらお(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の家との交流や近隣にある神社へのお参り等支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診は毎月欠かさず受診をしている。かかりつけ医との関係は良好で訪問診療もできている。本人が希望されれば専門医も受診している	かかりつけ医の継続が行われており、管理者が通院介助を行っている。体調不良、薬など変更時には家族へ報告を行っている。協力医とは24時間対応の関係を築いており、緊急時も適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定は毎朝行っている。又介護中に身体の異常や発熱などに気付いた場合はすぐに主治医のところに受診をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合等はそこの病院のソーシャルワーカーや看護師等に話を聞いたり他者の受診の際に主治医に尋ねたりしている。入院時の洗濯物等は施設で交換に出向いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合は何処まで施設で対応できるかその時その時で家族と話し合っている。終末期の方は家族と主治医と密に相談しながら対応している	契約時に家族に説明をし、同意も得ている。状況に応じて主治医、家族、事業所での話し合いの場もたれ、対応の記録もある。職員へも状況報告がなされ、対応策が話し合われている。看取り時には医師との連携も取られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を消防署より出向いてもらい講義・講習をしてもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立会いの下、避難訓練等行っている	年2回の消防訓練が消防署立会いで行なわれている。夜間想定訓練もあり、地域住人も参加しており、その様子はホーム便りで報告されている。災害対策として避難場所の確認なども行うなど、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の場面場面で言葉遣い等を使い分け「言葉の暴力」にはならないように気をつけている。(時には方言等も出たりする)	利用者との会話では、尊厳を損ねないよう言葉遣いに配慮をしている。職員は守秘義務の誓約書を作成し、利用者の個人記録は事務所内での保管を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の場面で本人が口にされる自己決定は尊重するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ややもすれば職員のペースになってしまうがその時と場合によって希望に添ったりその人のペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される衣類の購入は本人同行で衣料品店に出向いている。化粧品等も希望される品物を購入してきたり一緒に出向いたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度の方が多く準備や片付け等は出来ない。好みの食事等は取り入れるようにしている	利用者の嗜好を日常の会話の中から把握して献立に取り入れている。旬の食材を使うことで季節を感じられるよう心がけている。誕生会、外食など行事食も企画されており、食材の下準備を手伝う利用者もいて、職員は食事が楽しみになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事の摂取量・水分の摂取量は記録していて水分不足にならないように気をつけている。食欲が落ちてきた方等は主治医に相談し栄養補助飲料等も使用したりする		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯の管理が出来ない人は夕食後洗浄し翌朝渡すようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	終日オムツ使用とかではなくその方の能力に応じて日中と夜間との使い分けやトイレへの誘導など個別に行っている	個々の排泄を、摂取水分量と併に記録し把握している。時間誘導や仕草、表情から居室トイレへの誘導を行っている。おむつからのパッド、布パンツ、失禁の軽減など細やかな支援から快方に向かった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底や軽度の運動等行っている。入浴後は清涼飲料の提供や希望時等はコーヒー等を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1日置きの入浴としているが希望されれば毎日入浴できる体制となっている。午前での午後でも入浴時間は自由にできる	1日おきの入浴をユニットごとに日を替えて支援しており、拒否等については後日、どちらかのユニットで入浴できる。またシャワー、清拭等の対応もあり、職員2人介助で安全に入浴介助を行なっている。入浴記録も取られている。個々のシャンプーや湯温など入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので自由に気儘に過ごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に服薬の処方選を綴っている。直ぐに確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとや気分転換など支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型インフルエンザの流行もあり人手の多い場所への外出は控えた。頻度は多くはないが希望されれば戸外に花を見に行ったり正月等は希望される方は神社参拝に出かけたりした	気候や状況に応じ、菜園の手入れや庭での日光浴を行うようにしている。管理者とドライブに出かけたり、周辺の散歩など行われている。また、花見や平戸大橋までのドライブなど全員での外出を計画し実行されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の方が多く自分でお金の管理が出来ないためお金を持っている人は1人で買い物等は同行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけている。手紙のやり取りもなされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭菜園があるので季節の野菜を採りその日の食事に取り入れたりする事ができる。施設の周りは広く開放感がある。又共用の空間も明るく居心地よく過ごせるようになっていく	玄関、浴室などバリアフリーの施設整備が整っている。リビングには季節の飾りがあり、また植物も置かれ家庭的な雰囲気となっている。職員による毎朝の清掃や温度、換気がなされ、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で自由に過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は筆筒・テレビ・仏壇・花等自分の好みや使い慣れたものを置かれている	居室へは個人の馴染みの物が自由に持ち込まれている。ベットや調度類の配置も好みや、利用者の使い勝手にあわせている。毎朝、職員が掃除と窓を開けて換気を行い、快適な居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全で自立した生活が送れるようになっている。居室内もトイレ・洗面所周囲には手摺がついていて使いやすく自立して出来るようになっている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 楽しく ゆっくりと」とを日々の暮らしに生かせるように心がけ実践に取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区区会に入会して回覧板等も廻ってくる。又施設でイベント等をする時は近隣の方に呼びかけをすると見学にいられて一緒に楽しんでいる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント等の時や回覧板を持ってこられた時等に此処に話しをする事がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業の取り組みの実際や今後の取り組みなど会議の毎に報告し相談や意見等を聞いてサービスに活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月提出物等を持参した時や窓口に出向いた時等に相談ごとや話し等にきいてほしいアドバイス等もらっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待が虐待ではなくて「言葉の虐待」もあること認識するように言葉使いは気をつけるようにしている		

グループホーム えびらお(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を必要とする利用者は入居されていないが研修だけは受けて知識としてはある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際や入所時に契約書・重要事項説明書等の取り交わしの際は十分に説明を行い疑問・質問を受けるようにしている。又改定等の場合も十分に説明を行い同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中で利用者の意見や要望等を自由に口にされる。家族の方へも面会時には要望等を聞くようにしている。要望の中でとりいれられたり、取り組みができる事から始めるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議ででた意見や提案は実行出来るものから取り入れている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に意見を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	研修や資格試験など積極的に応援をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベント等をする時は近隣の福祉施設に呼びかけ交流をしている。(多数の参加がある)隔月で開催される支援専門員会議にも出席して知識や情報を深めるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後不安が大きな方には密に対応するようにしている。又様々な要望にも出来る限り対応するようにして安心を持ってもらうように努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配事や入所後の不安等、出来る限り話を聞き不安を取り除けて安心してもらえるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「利用者が今必要としていること」を十分に見極めサービスの提供に結びつけるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の些細な場面でも会話を心がけている。冗談を日常の会話として笑顔を引き出すようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等本人・家族を交え写真が出来ていれば写真を説明しながら日常の暮らしぶりや病院受診の際のDrの説明や病状の経過等様子等を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達・知人等の面会は大切にしている。墓参り等は希望があれば支援している。(毎月墓参りと自宅に仏様参りに帰られている方もいて支援している)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに友人を作り話等和やかにされていたりする。生花のやり取りや面会時に頂かれた御菓子等のやり取りも目にしたりする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方でも必要時には家族に連絡をいれ現在の状態等を聞いたり行政からの問い合わせを家族に連絡したりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望等、表出できる人には聞いたり出来ない人には本人本位に考えるように努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の相談時に家族に聞いたりこれまで関わってこられた方に今までの暮らしぶりを聞いたりして生活の状況等把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方や心身の状況・出来る能力等把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理解ができる方は本人と、できない方は家族や職員と話し合いながら介護計画を作成するようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫などは申し送りノートに記入したり職員会議の場で話し合い取り入れるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じてサービスの内容を話し合いながらその時に即した内容に此处に変えている		

グループホーム えびらお(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の家との交流や近隣にある神社へのお参り等支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の受診は毎月欠かさず受診をしている。かかりつけ医との関係は良好で訪問診療もできている。本人が希望されれば専門医も受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定は毎朝行っている。又介護中に身体の異常や発熱などに気付いた場合はすぐに主治医のところに受診をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合等はそこの病院のソーシャルワーカーと話をしたり看護等に話を聞いたりしている。洗濯物などは施設で定期的交換に出向いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合は何処まで施設で対応できるかその時その時で家族と話しあうようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を消防署より出向いてもらい講義・講習をしてもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立会いの下、避難訓練等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活の場でもあるので地域の方言等その時々言葉遣いをするようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思っていることや希望や要望を自由に言われたり、伝えられたりする		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先する場合もあるが日々思い思いに過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにその季節にふさわしい装いに身だしなみ整うように又その場に相応しい装いであるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階から食事は出来てくる。又重度の方ばかりなので(介助者が多い)ので一緒に食事や後片付けなど出来ていない		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事の接種量・水分の摂取量は記録していて水分不足にならないように気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯の管理が出来ない人は夕食後洗浄し翌朝渡すようにしている		

グループホーム えびらお(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	終日オムツ使用とかではなくその方の能力に応じて日中と夜間との使い分けやトイレへの誘導等個別に行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底や夕食の前等軽度の運動等行っている。入浴後は清涼飲料の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1日置きの入浴としているが希望されれば毎日入浴できる体制となっている。午前での午後でも入浴時間は自由にできる		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので自由に気儘に過ごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に服薬の処方選を綴っている。自由に見ることが出来るようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとや気分転換など支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型インフルエンザの流行もあり人手の多い場所への外出は控えた。頻度は多くはないが希望されれば戸外に花を見に行ったり正月等は希望される方は神社参拝に出かけたりした		

グループホーム えびらお(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人は1人。買い物を頼まれるたりする		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りもなされている。電話をかける人も1人。希望があれば支援する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Bユニットは2階部分なので見晴らしが良く季節の臭い・風・雲等強く感じる事ができる。花の季節等は特に待っておられる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で自由に過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は筆筒・テレビ・仏壇・花等自分の好みや使い慣れたものを置かれている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全で自立した生活が送れるようになっている。居室内もトイレ・洗面所周囲には手摺がついていて使いやすく自立して出来るようになっている		